記　　事

◎第10回理事会（昭.26.2.1.）出席者：三浦会長，稲浦副会長，市浦，奥田，国分，佐藤，西松，丸安，米元各理事

協議事項：（1）日本建築学会の学会賞擬賞候補の応募推薦方依頼については編集委員会で協議の上回答のこと，（2）ＪＳＣ中央選挙管理委員推薦については，吉田徳次郎，佐藤寛政，国分正胤，北村市太郎の4氏を推薦すること，（3）25年度土木賞委員会委員候補者を次の通りとし，常議員会に提案すること
関東：青木楠男，内海清温，小宅習吉，加藤正晴，田中豊，当山道三，福田武雄，堀越一三，本間仁，松村孫治，最上武雄，吉田徳次郎，北海道：大坪喜久太郎東北：内田黍郎，中部：比企野広治，関西：石原藤次郎，中国四国：伊藤令二，西部：三瀬幸三郎，学会側：三浦義男，大西英一，稲浦鹿藏，奥田教朝，米元卓介，の23氏，（4）Mr. Gail A. Hathaway の歓迎方法は計画通り承認，（5）地理調査所からの試作地図に対する意見は丸安理事に一任，（6）常議員会は2月21日開催のこと，（7）会員入退会を承認
◎常議員会（昭.26.2.21）出席者：三浦会長，大西副会長，佐々木，野中，畑野，福田，丸安，宮崎，八十島，米元，内田，比企野，村山の各常議員外委任状16名，計29名で常議員会成立，那波，久保田，草間，黒河内，吉田の各前会長，丹羽名誉員，奥田，国分，北村の各理事，

議事：昭和25年度土木賞委員会委員推薦の件は原案通り可決

協議事項：1.　土木賞委員会委員長はその委員会の互選とする

2.　第1回委員会を3月5日とする

3.　学会事業概要報告

その他：学会事業について久保田前会長より諸官庁，会社等の調査委託を受けて実施する提案あり全員賛成会議後吉田前会長から約1時間に亘り興味深い印度の話があつた。
◎各種委員会

（1）　土木賞予選編集委員会（昭.26.2.16）出席者：奥田委員長，米元副委員長外各委員

協議事項：近日中第1回土木賞委員会を開催する予定であるから昨年の例によつて編集委員会で予選することゝし本日学会賞候補8編，奨励賞候補4編，を選定した。

（2）　編集委員会（昭.26.2.19）出席者：米元副委員長外各委員

協議事項：①第36巻第4号登載論文を下記の通り決定した。
吉村虎蔵：鉄筋コンクリート部材の接合に関する実験的研究；水野高明・吉村芳男：三辺固定一辺自由矩形版の計算及びその応用，北郷繁：測角の精度に関する実験的研究；丹羽良彥：釜石線建設について，田中治男・石外宏：貯水池の堆砂量と集水区域の地形及び地質との関係について，大浜文彥：コンクリート電気養生に関する実験，千秋邦夫：米国における科学技術振興方策。②昭和25年度土木賞候補論文予選結果を報告し，尙研究を行つた。③前回理事会で編集委員会に一任したJSC力学研究委員会について協議の結果3月号会誌に国際理論応用力学委員会へ論文を提出する者は，9月末日までに和英両文で学会宛提出するよう会員に周知せしめることゝなつた。④寄稿依頼先を決定した。⑤第7回年次講演会の関東地区割当数30の割当を国分委員から各委員に依頼した。

（3）　用語委員会（昭.26.2.14）出席者：福田委員長外各委員。協議事項：河川用語を検討審議した。

（4）　土木叢書委員会（昭.26.3.1）出席者：佐藤委員長，最上，米元，岡本の各委員，壮文社の宮崎氏中川書記長及び職員

（1）　壮文社が叢書刊行を継続不能になつた経過について宮崎氏から説明があつた。朝鮮動乱による紙，鉛等資材高騰のため資金難におちいり中絶のやむなきに至つた。

（2）　叢書を肩替りするため去る10月頃から交渉しているが，壮文社対他社としての交渉は絶望の状態になつた。木構造，鋼橋，下水道，鉄道線路の紙型その他一切を身売りしたい希望で交渉にはいつたが他社としてはこれに難色があるらしい。なお土木叢書としてでなく販売効果をねらつて刊行したい意向がある。随つて学会としては当面の処置として手持原稿を処理する意味であれば，まだ交渉の余地はあるようである。

（3）　今後の方針：（イ）学会として他社と交渉の方法をとりその意向を当つて見ること。（ロ）手持原稿の処置について各委員から著者の意向をきいて見ること。（ハ）理事会の意見と（イ）（ロ）の意向を集めて更に次回委員会にて相談すること。
◎その他

（1）　日本自然科学連合設立について日本工学会から報告（26.2.7付）

a.）日本工学会，日本医学会，日本薬学会，日本農学会，理学連合の各学会連合体で標記日本自然科学会連合を設立した。

b）2月5日懇談会を開催し（イ）法人税免除について，（ロ）特定郵便料金及び集金郵便の復活，（ハ）連合の規約（ニ）経費，（ホ）学術会議との懇談，（ヘ）戦時中の研究の未発表のもの等について懇談した。

（2）　文部省大学々術局長から学術雑誌（工芸関係）の国際交換について印度シイブラ研究所生物化学科 S. Mahdihassan 博士から照会があつたから機関誌を学術課宛に送付されたいと依頼があつた。

（3）谷藤正三君（目下アメリカ視察中）から別掲記事のような便りがあつた。

支部だより

（1）　北海道支部では2月2,3両日に亘り北海道大学工学部講堂で本年度研究発表会を催し，研究発表者27名，聴講者延500名で範囲も全道に亘り極めて盛会であつた。

土木技術研究発表会（於北大工学部大講堂）

第1日目（昭.26.2.2）

開会の辞，挨拶	土木学会北海道支部長	池田一男
羽目板の安定に就いて	北大助教授	倉田宗章
鉄筋コンクリート電気養生施工報告	北大工学部	矢部照市
珪藻土混入軟練モルタルの凍害に関する研究	札幌市役所土木課	辻井幸雄
セメント糊の凍害に関する抵抗性に就いて	北大教授	板倉忠三
A.E.コンクリートに就いて	北大工学部	太齊宗一
鉄筋コンクリート無鉸アーチの理論的形状について	北海道土木試験所々長	横道英雄
鉄筋コンクリート橋の被害について	北海道土木試験所	林正道
港湾工事の水中混凝土施工について	稚内土木現業所	梅木馨六
留萠港に於ける鉄矢板護岸補修について	留萠土木現業所	栗林隆
鬼鹿船入澗スラブ式護岸コンクリートの配合設計並びに施工について	留萠土木現業所	河野文人
増毛港海岸護岸に就いて	留萠土木現業所	土栄静雄
ケーソンの電気養生に就いて	稚内土木現業所	加藤市郎
雨龍川綜合開発事業鷹泊堰堤工事	石狩川治水事務所利水部	山岡勳
鷹泊堰堤地点の地質構造について	北海道土木試験所	佐々木敏雄
幾春別川山地流域内に於る降雨量及び水位との関係について	北海道土木試験所	村木義雄
江卸発電所増設工事に就いて	日発札幌支店	大橋康雄

第2日目（昭.26.2.3）

土堰堤工事の特殊性について	北海道土木試験所	堂垣内徹
和寒土堰堤放水路模型実験について	北大助教授	尾崎晃
東橋梁橋地点の測量について	北大助教授	北郷繁
測角の精度に関する実験的研究	北大助教授	北郷繁
泥炭地の貫入試験と泥炭層の構造について	北大教授	真井耕象
隧道掘進に於るバーンカット心抜法に就いて	北大工学部	菅原照雄
工事施工と現場試験室の関連性に就いて	大林組札幌支店	斎藤鼎
キャリオールスクレーパーの実績に就いて	北海道土木試験所	武山広志
バケット式堀削機の改造に就いて	北海道土木試験所	橋本勇
小樽港副防波堤模型試験	北海道土木試験所	古谷浩三
厚田村地辷り調査（中間報告）	北大工学部	大平至徳

写真　北海道支部講演会場

（2）北海道支部で2月1日総理府 STAC 局長千秋邦夫氏の「アメリカに於ける科学技術の振興方策について」と題する講演を札幌豊平館に於て開催，聴衆約120名に多大の感銘を与えた。

（3）中部支部2月行事として2月10日午後1時から建設省矢作橋架橋工事の見学会を挙行し，参加者50名で盛会であつた。

（4）関西支部では2月10日役員会を開催し，本年度通常総会及び第7回年次講演会実施について打合せを行い本誌第2号「お知らせ」に登載したような次第で挙行することに決定した（省略）。

（5）関西支部では年次講演会開催準備のため第1回実行委員会を（2月24日）招集し原案の通り承認し総務，会計，接待，講演，見学の各部に主幹を置き，各部会では早急に実施計画を樹てることに決定した。そして各支部へ講演割当を依頼した。

昭和26年3月25日　印刷　　土木学会誌　　定価 80円
昭和26年3月30日　発行　　第36巻 第3号

編集兼発行者　東京都千代田区大手町2丁目4番地　中川一美
印刷者　東京都港区溜池町5番地　大沼正吉
印刷所　東京都港区溜池町5番地　株式会社 技報堂

東京都中央局区内千代田区大手町2丁目4番地　電話丸の内(23)3945番
発行所　社団法人 土木学会　振替東京16828番

土木・鉱業機械設計・製作・販売

株式会社 **越ケ谷製作所**

取締役社長 近 藤 正 巳
常務取締役 奥 山 幸 雄
本 社 埼玉県越ケ谷町1632
電 話 越 ケ 谷 177
工 場 埼玉県越ケ谷町1632

―― 営業種目 ――

ブレーキジョウクラッシャー
タンデム型ロードローラー（デーゼル，ガソリン各種）
マカダム型ロードローラー（デーゼル，ガソリン各種）
（10″×7″ 16″×9″ 20″×12″ 24″×16″）
特種型（ファイン型）製作中
セメントガンB型，N型各種，ポータブルクラッシャー
砕石プラント 小型蒸気機関車，タンプカー，鉱車ミキサー，ウインチ，其ノ他土木鉱山機械各種

◎ 改正広告料金 ◎

表紙の2，3面	全 面 9000円（旧料金8000円	1/6 1枠1500円 1/8 1枠1000円）
表紙の3対向頁	全 面 8000円（旧料金7200円	1/8 1枠1000円 1/8 1枠 900円）
普 通 頁	全 面 7200円（旧料金6400円	1/8 1枠 900円 1/8 1枠 800円）

外に図版，写真掲載の際は実費を戴きます。

広告掲載御希望の方は学会宛御一報下されば直ちに係員参上致します。

土木学会廣告部

東京農工大学助教授 行方文吾著（新刊）

土木材料及施工法

A5判 436頁 函入上製 価 500円 〒30円

（目次概要） 1.木材（性質・製材と乾燥法・腐蝕等）2.石材及石工（構造用石材各論・採石及び加工法等）3.煉瓦及煉瓦工（普通及特殊煉瓦・積方）4.セメント及コンクリート工（石灰・ポルトランドセメント・高級セメント等）外3項目 学生技術者必携書。

明治大学教授 千種虎正著

水理公式簡易計算法 表並に図 B5判 60頁 表価130円〒10

煩雑な水理公式の簡易計算法を解説し，重要水理公式は凡て表又は図表化し，水利技術者の実際の仕事を極めて容易ならしむる様に編述してある。

岐阜大学教授 長浜謙吾著

暗渠排水（農業土木各論） A5判 276頁 価 150円 〒20

暗渠排水の理論的研究書の少なき今日，この方面に特に発達せるドイツの暗渠を参考とし，我国のものについても出来得る限り基礎的資料を理論的に纏め且つ図を豊富に入れて簡明に敍述してある。

蒲 孚	**砂防工学**	送共	210円
上野正夫	**基礎地盤の力学**	〃	180円
徳善義光	**橋梁工学**	〃	435円
本間 仁	**高等水理学**	〃	210円

東京都千代田区神田旅籠町三ノ六（振替東京27724番）

産業図書株式会社（総目録進呈 郵券6円入用）

土木学会取次図書

	書籍名	定価	著者名	発行所	送料
1	測量学（上巻）	180	丸安隆和	コロナ社	￥20
2	〃（下巻）	280	〃	〃	30
3	最新都市計画（上巻）	600	レービス	〃	40
4	基礎の支持力論	280	星埜和	〃	30
5	理工学事典 I	600		森北出版株式会社	40
6	道路工学	80	岩沢忠恭	〃	20
7	河川工学	350	末松栄	〃	25
8	高水工学	250	日笠育夫	〃	25
9	標準材積表	150	農林省山林局編	〃	15
10	応用力学	450	山口昇	アルス社	40
11	築港工学（前篇）	350	横井増治	科学技術社	30
12	〃（後篇）	350	〃	〃	30
13	鉄道鋼橋設計資料	200	橋梁研究会編	科学技術弘報協会	30
14	（随筆）山・旅・人・学	200	山口昇	柏葉社	20
15	技術と哲学	160	平山復二郎	理工図書株式会社	30
16	測量野帳	80		〃	10
17	土木日記	110		〃	10
18	道路の設計とその実例	200	有馬博雄	〃	25
19	土木工法資料	300	磯崎伝作	〃	30
20	日本建設機械要覧	1.000		日本建設機械化協会	40